

# 里見明正展

～ごあいさつ～

本市を代表する近代画家として、奥原晴湖、森田恒友、大久保喜一があげられますが、特に大久保喜一は県下初の洋画団体である「坂東洋画会」で指導にあたるなど、県北の芸術活動において大きな足跡を残しました。その後坂東洋画会は「朱麦会」と名称を変え、現在に至っています。この「朱麦会」を牽引し、多くの画家に大きな影響を与えた人物に、里見明正が挙げられます。

氏は明治45年（1912）に熊谷で生まれ、熊谷中学校（現熊谷高校）で大久保喜一に絵画を学び、卒業後は東京美術学校（現東京芸大）油画科に入学、在学中からその才能を如何なく発揮し、卒業制作である「岩頭の日蓮」は、その後に確立されていく画風を窺わせるに余りある、非常に印象的な作品であるといえます。

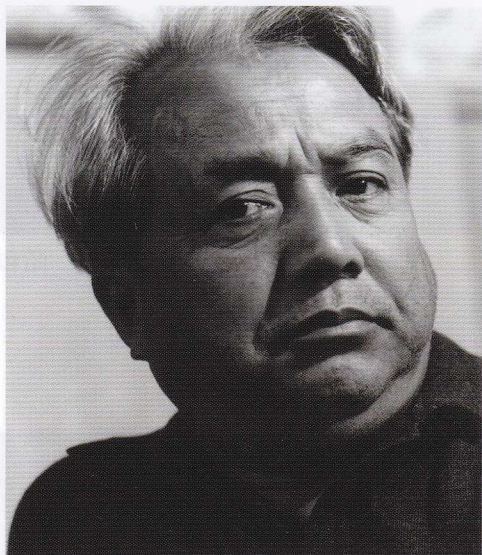
卒業後は第5回新文展で「鶏舎」が初入選で特選受賞するなど、中央画壇でその才能が認められ、里見特有のデフォルメされたフォルムの中に、伸びやかに走るタッチと、明るい色彩で数多くの作品を生み出し、

“里見スタイル”を確立しました。そして日展、光風会展に出品されたその作品は、筆跡を強調し、原色による印象を強く残しながら、そのモチーフから得た情熱をそのままキャンバスに描ききっています。

また、氏は画業のほかに熊谷市文化連合会長や朱麦会会長、熊谷市教育委員長など多くの役職を務め、地域の文化振興に大きく貢献し、現在も氏の薫陶を受けた多くの画家が、その才能を発揮し多くの作品を残しています。

このように多彩な才能を各方面にわたり発揮した氏でしたが、これから円熟期を迎えようとする矢先に、62歳にてその生涯をとじました。

今回展では、所蔵品の中から“里見スタイル”の粋を一堂に会し、氏の残した多大な業績・作品を振り返ろうとするものです。これらの作品を通じて、本市の誇る画家・里見明正を再確認していただくと共に、“情熱の画家”とも称される里見芸術を堪能していただければ幸いです。



ヤギ（堤） 昭和18年

会期：平成28年9月6日（火）～12月18日（日）

[休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、9/20、9/23、10/7、10/18～21、11/4、11/24、12/2]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時

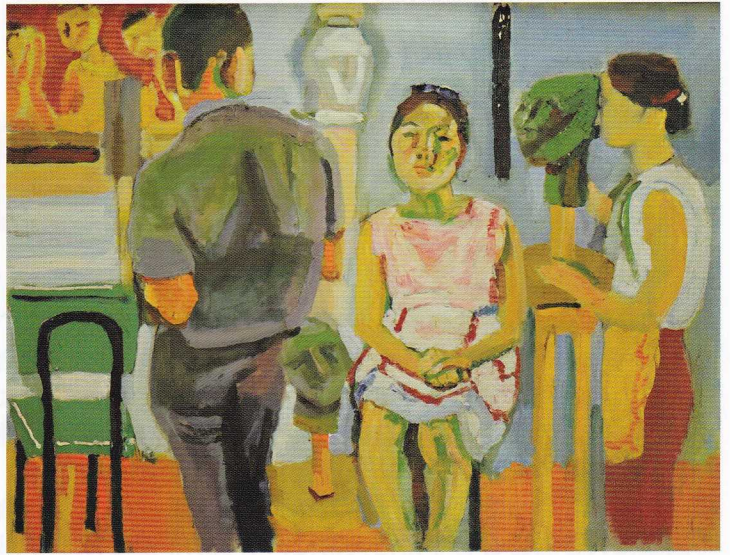
主催：熊谷市立熊谷図書館

住所：熊谷市桜木町2-33-2

電話：048-525-9463



描く人 昭和39年



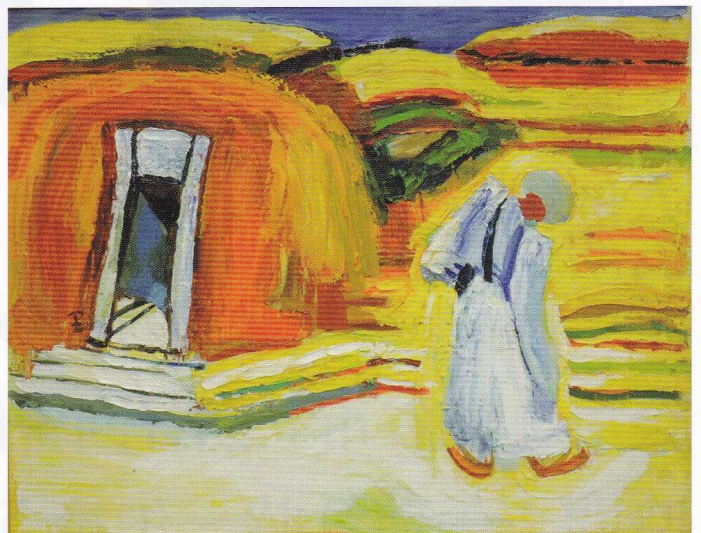
仕事場 昭和39年



早春風景 昭和44年



墓地に運ばれたキリスト 昭和46年



王家の谷 昭和48年